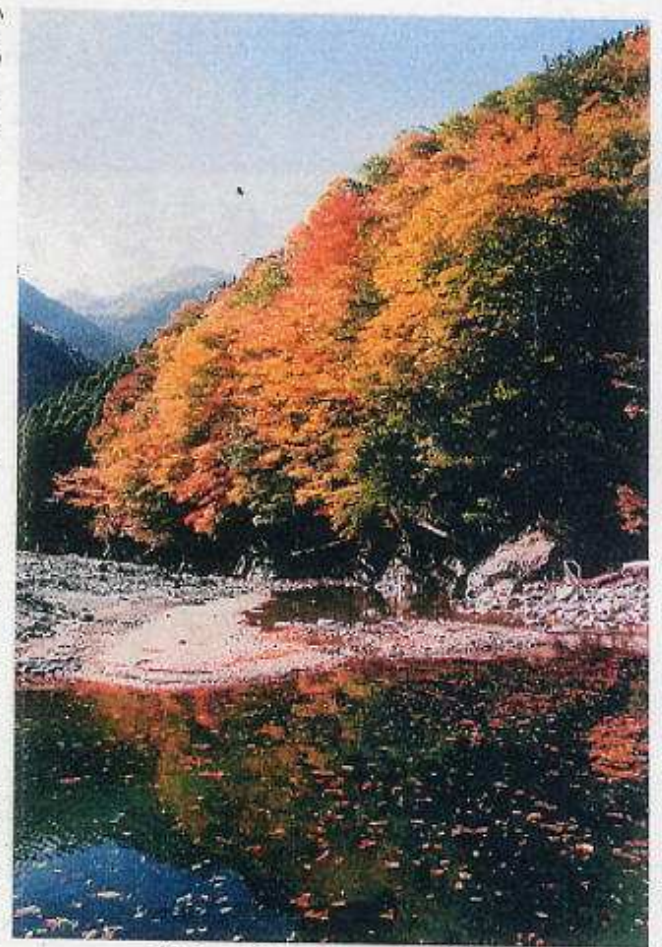


# てんがし新聞

12.11.No185  
発行 市岡日雄  
責任 市岡日雄  
0883-88-5292

## 少しおくれで 秋色満開



～ 蒼生・祖谷川の紅葉～

十月上旬より、三山嶺・剣山よりはじまっ  
た今年の紅葉も、少々足止めで、少し遅  
れ、二上目頃かうようやく国道、県道を  
いがかおきはひめていきます。

例年より、十月末には、もう枯木の様な  
景色の奥祖谷二重かぶら橋の紅葉も  
今が見頃とわり、これから祖谷街道  
が絶景とわりそうです。  
まだまだこれから、祖谷の美しい景色が  
見られます。

↑奥祖谷二重かぶら橋の紅葉



三山嶺山頂でも、コメツツジが紅葉してきこ  
ミマコクマガサの緑、そして秋の青空、点々と  
白く見える岩窟のコントラストが見事であ  
る。今や自然界の悪者(凶)状態の鹿も  
笹原に数頭(頭)見ることがあります。  
時々、恋の相手にこうグールしている鳴き声  
を耳にする。毎年、この季節の出来事。  
違っているのは、人間の対応だけ。

いよいよ人間の対応だけでなく、鹿も段々  
と、人に慣れ、来ている様で、毎晩の様に  
家の近辺に姿を見られ、人が植えてある野草や  
草花が美味いのか、食べつくす。  
今年も、ツツジが芽だつて、エの中かう掘って食べ  
ころ様です。一杯あったギョウワシは、一本も見  
えなくなくなっていきます。

鹿の変化は、鹿の生き方の変更ではなく、人  
間の生き方が変化し、住環境が変わつて、鹿  
が対応して、エサ獲りをはひめていだけだす。

10月尾でソバの紅花の穂類が、昔かうある  
祖谷のソバとの混合になり、「祖谷そば」のブ  
ランドがなくなるのではいか、それともいい  
のほううかと書きたまひた。  
東京のら氏より、「自然との共生のウソ」という

本を送って頂き、興味を持って読んで下さ  
い。以前より、外来植物について身になつてい  
た。それは、祖谷にない花々を、家の隣に植  
えることですが、心配には及びません。  
地球上に、人間が生きたはひめ、米かうほ  
まり、ほと  
んどが外  
来種。  
日本固有  
種は、ササ  
リというこ  
とだそう  
です。

持論「祖谷  
固有種が  
果してこれ  
かというの  
が、不明だ  
か」ところ  
だとして、  
その車を回  
覧して、所  
働は、心算  
どとはおも  
いませぬ。

